

基本的な考え方	大目標	中目標	分野	現状	課題	目標項目	現状値	H29年度目標値	(行政)取組	(部会)取組
	定期的に健(検)診を受ける	生活習慣病(がん・循環器・糖尿病)	H24年度がん検診受診率は、胃がん15.9%、大腸がん17.7%、肺がん26.7%、子宮がん14.3%、乳がん14.2%、前立腺がん13.5%である。前立腺がん検診はH24年度から開始した。胃がん、大腸がん、肺がん検診受診率は増加傾向にあるが、子宮がん、乳がん検診受診率は減少傾向にある。	⇒がん検診受診率が低い。	・各種がん検診の受診率の向上	胃がん 15.9% 大腸がん 17.7% 肺がん 26.7% 子宮がん 14.3% 乳がん 14.2% 前立腺がん13.5% (H24実績)	50% (胃がん・肺がん・大腸がんは当面40% H28)	・家庭訪問 ・健康教育 ・健康手帳の交付 ・地区組織との協働 ・医師会との連携 ・商工会議所との連携 ・職域との連携 ・ステーションとの協働	ステーション	
			毎年健康診断を受けている人は68%、2～3年に1回の人は9%、3年に1回以下の人は8%、受けない人は15%だった。20～50歳代までは、男性の方が毎年健康診断を受けている率が高い。70～80歳代では、男性と女性で受診率は変わらない。男女とも5～8割の方が毎年健診を受診している。職業別で健康診断の状況を見ると、公務員、会社員、医療専門職では毎年健診を受けている人の割合が80～90%と高く、逆に農林水産業は64.5%、パートは60.5%、無職は55.7%、専業主婦は38.9%、自営業は31.5%と、毎年市の健診を受けている人の割合は低い。	⇒健康診断を受けていない人がいる。	・健康診断を受けている人の割合の増加					
			H24年度がん検診精密検査受診率は、胃がん91.7%、大腸がん72.6%、肺がん92.4%、子宮がん83.3%、乳がん98.0%、前立腺がん73.5%である。	⇒精密検査を受けていない人がいる。	・精密検査受診率の増加	83% (H24実績)	100% に近づける	・家庭訪問 ・健康教育 ・医師会との連携		
			平成20～22年度の特定健診受診率は26～27%でほぼ横ばいであった。平成23年度は30.4%と30%を超えたものの、目標の60%には、ほど遠い状況である。(国平均32.7%には及ばなかったが、県平均の21.6%からは大きく上回った。)	⇒特定健診受診率が低い。	・特定健診受診率の向上	30.4% (H23実績)	60%	・地区組織との協働 ・ステーションとの協働	ステーション	
			平成20年度の特定保健指導実施率は11.0%で、平成21年度には21.6%と上昇したものの、それ以降は下降している。平成23年度の実施率は6.0%である。(国平均の21.7%、県平均の16.5%と比較しても低い状況である。)	⇒特定保健指導実施率が低い。	・特定保健指導実施率の増加	6.0% (H23実績)	60%	・健康教育 ・医師会との連携		
		日常生活の中で体を動かすことを常に意識している人は38%、ときどき意識している人は41%、あまり意識していない人は18%、全く意識していない人は3%だった。男女とも50歳代までは約70%前後の人が体を動かすことをときどきまたは常に意識しているが、60歳以上になると約90%の人が意識している。常に体を動かすことを意識している人は若い年代に少なく、60歳代から急激に増加している。スポーツや運動など体を動かすことを、よくする人は25%、ときどきする人は32%、あまりしない人は28%、全くしない人は15%だった。男性では体を動かしている人が、どの年代も60～70%いるが、女性では若い年代で体を動かしている人は少なく、60歳代から増加している。	⇒体を動かすことを意識しているが、実際に体を動かしていない人がいる。	・日常生活の中で体を動かすことを意識している人の増加 ・スポーツや運動など体を動かしている人の増加	79% 57%	増やす	・健康教育 ・地区組織との協働 ・部会との協働 ・ステーションとの協働	スポーツ部会 ステーション		
		3年間SOSおきよう体操の普及を行ってきたが、普段から自主的にしている人は4%、イベント等でしただことがある人は10%、名前は聞いたことがあるが、したことはない人が13%、名前も知らない人が73%だった。40歳までは男女ともほとんど行ったことがないが、60歳以上の女性は、イベント等を含め行ったことがある人が、約30～40%いる。	⇒SOSおきよう体操を知っている人が少ない。	・SOSおきよう体操を知っている人の増加	27%	増やす		スポーツ部会		

私たちは、共に楽しんで健康づくりに取り組みます

正しい食習慣を身につける	食生活	毎日朝食を摂取している人は84%、週に4~6回の方は7%、1~3回の方は6%、0回の方は3%だった。 毎日朝食を摂取している人の割合は、20歳代男性で50.0%、次いで20歳代女性で65.3%と低い状況である。10~30歳代及び40歳代男性で、毎日朝食を摂取している割合が低い。	⇒毎日朝食を摂取していない人がいる。	・毎日朝食を食べる人の割合の増加	84%	増やす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育</li> <li>・地区組織との協働</li> <li>・幼・保・小・中との連携</li> <li>・部会との協働</li> </ul>	スタイル部会 ステーション
		平成21年実施の食育に関する市民意識調査によると、野菜料理を毎回食べると回答した人は24.7%、2食は食べる人は32.9%、1食は食べる人は37.8%、ほとんど食べない人は3.8%だった。年代別に毎回食べる人の割合を見ると、20~30歳代で15.9%、40~50歳代で19.5%、60歳以上で37.5%で、年代が若いほど、野菜摂取の割合が低い。	⇒野菜摂取頻度が少ない。	・野菜摂取頻度の割合の向上	24.7%	増やす		
		平成21年度実施の食育に関する市民意識調査によると、食事バランスガイドを知っていると回答した成人は75.6%、子どもは51.6%だった。しかし、「知っているが、食事の参考にしない」と回答した人を年代別に見ると、20~30歳代で52.3%、40~50歳代で45.1%、60歳以上で32.9%だった。年代が若いほど、認知度・活用度の割合が低い。	⇒食事バランスガイドの活用度が低い。	・食事バランスガイドの認知度・活用度の向上	活用度 32.2% 子ども(認知度) 51.6%	60%以上 80%以上		
		平成21年度実施の食育に関する市民意識調査によると、食育という言葉聞いたことがあると回答した人は、88.1%だったが、「聞いたことはあるが、関心がない」と回答した人を年代別にみると、20~30歳代で29.5%、40~50歳代で35.1%、60歳以上で16.5%と関心が薄い状況だった。	⇒食育への関心が低い。	・食育の関心度の向上(食育アンケート)	26.6%	増やす		
禁煙を実行する	喫煙	たばこを吸ったことがない人は71%、昔吸っていたが禁煙した人は17%、ときどき吸う人は2%、毎日(1日10本以下)の人は3%、毎日(1日10本以上)の人は7%だった。88%の人は喫煙していない。しかし、男性で見ると、禁煙した割合も多いが、20~50歳代の約30%、60~70歳代でも約20%の人が喫煙している。また、女性で現在喫煙している年代で多いのは20歳代で13.7%、次いで30歳代で9.2%だった。	⇒若い年代での喫煙が多い。	・煙草を吸っている人の減少	12%	減らす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育</li> <li>・母子健康手帳交付時の面接</li> <li>・医師会との連携</li> </ul>	スタイル部会 ステーション
<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に歯科健診を受ける</li> <li>・正しい口腔ケアを習慣化する</li> </ul>	歯と口腔	噛むことをいつも意識している人は13%、ときどき意識している人は43%、あまり意識していない人は36%、全く意識していない人は8%だった。 男女で比較すると、女性の方が噛むことを意識している割合は高い。 年代別にみると、男性の50歳代までは約40%、女性の40歳代までは約50%と、他の年代に比べて噛むことを意識している割合が低い。	⇒噛むことを意識していない人がいる。	・噛むことを意識している人の割合の増加	56%	増やす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育</li> <li>・幼児健診</li> <li>・歯科医師会との連携</li> <li>・部会との協働</li> </ul>	スタイル部会 ステーション
		毎年定期検診を受けている人は26%、2~3年に1回は14%、不定期(3年に1回以下)は20%、受けていない人は40%だった。毎年、歯の定期検診を受けている人で多いのは70歳代であるが、41%である。	⇒歯の定期検診を受けていない人がいる。	・歯の定期健診を受けていない人の減少	74%	減らす		
		1日2回以上磨いている人は73%、1日1回は磨いている人は26%、あまり磨いていない人は1%、全く磨いていない人は0%だった。 男女で比較すると、男性は1日2回以上歯磨きをする割合が60%程度、女性は80%程度と20%の差がある。 平成24年度幼児健診のう歯罹患率は、1歳6か月健診で2.0%、3歳6か月健診では32.7%である。また、1人当たりのう歯数も1歳6か月健診では0.06本であるが、3歳6か月健診では1.2本である。 平成24年度山口県子どもの歯科保健統計によると、12歳児におけるう歯のない人(永久歯)の割合は44.41%で、13市の中でも2番目に悪い状況である。	⇒う歯の罹患率が高い。	・う歯のない人の増加	1歳6か月児98.0% 3歳6か月児67.3% (H24実績) 12歳児 44.41% (H24年度子どもの歯科保健統計)	増やす		

次世代の健康	<p>妊娠11週以内妊娠届出の割合はH23・24年度94%で山口県の92%(H23)よりも高い。しかし、妊娠届出28週以降の割合はH23年0.6%、H24年1%と山口県の0.4%より高い。年代別で見ると、20歳未満で妊娠11週以上の妊娠届出の割合が75.0%と他の年代に比べて高い。</p>	⇒妊娠届出時に、妊娠11週以上の人がいる。	・妊娠11週以下での妊娠届出率の増加	妊娠11週以内94% (H24実績)	100% に近づける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭訪問</li> <li>・健康教育</li> <li>・母子健康手帳交付時の面接</li> <li>・乳幼児健診</li> <li>・広報</li> <li>・医療機関との連携</li> <li>・地区組織との協働</li> <li>・保育園、幼稚園等関係機関との連携</li> </ul>	ステーション
	<p>低出生体重児の割合がH23年には9.6%と山口県の9.7%と比べて低いが、H24年度は11.1%と高くなっている 低出生体重児は近年微増傾向にある。</p>	⇒低体重児の割合が高い。	・全出生児数中の低出生体重児の割合の減少	低体重児11% (H24実績)	減らす		
	<p>平成24年度の3か月児健診受診率は97.9%。7か月児健診受診率は96.3%、1歳6か月児健診受診率は98.7%、3歳6か月児健診受診率は94.6%と、近年横ばい傾向であり、山口県と比較すると、受診率は高い。</p>	⇒乳幼児健診の受診率が100%ではない。	・乳幼児健診の受診率の向上	1か月児 94.4% 3か月児 97.9% 7か月児 96.3% 1歳6か月児 98.7% 3歳6か月児 94.6% (H24実績)	100% に近づける		
	<p>従来からのBCG、三種混合、二種混合、ポリオ、麻しん、風しん、日本脳炎の定期予防接種に加え、平成24年度には単独不活化ポリオ、4種混合が、平成25年度にはヒブ、小児肺炎球菌、子宮頸がん予防ワクチンが定期予防接種となった。麻しん風しん予防であるMR2期の接種率が93.7%と全国の目標値である95%より低い状況である。</p>	⇒予防接種の未接種者がいる。	・予防接種率の向上	BCG 84.3% 二混 80.1% MR1期 105.5% MR2期 93.7% (H24実績)	100% に近づける		
地域や社	<p>山口県保健統計年報によると、山陽小野田市の自殺死亡者数は平成18年は14人(男性12人、女性2人)、平成19年～21年は16人(男性12人、女性4人)、平成22年は12人(男性9人、女性3人)だったが、平成23年には23人(男性16人、女性9人)と急増している。平成23年の自殺死亡率は38.9人で、13市の中で一番高い。20～50歳代の自殺者が約60%を占め、働き盛りの自殺者が多い。</p>	⇒自殺死亡率が高い。	・自殺死亡率の減少	38.9人 (H23保健統計年報)	24.6人 (H28) 【H17の20%削減】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルキャピタルの推進</li> <li>・健康教育</li> <li>・健康相談</li> <li>・相談窓口の充実</li> <li>・広報</li> <li>・商工会議所との連携</li> <li>・職域との連携</li> <li>・ステーションとの協働</li> </ul>	ステーション
	<p>1日に全く会話をしない人は、1%、1～2人の人と会話をしている人は14%、3～5人は28%、6～10人は19%、10人以上は38%だった。 誰かの役に立っていると感じる人は29%、ときどき感じる人は52%、ほとんど感じない人は16%、全く感じない人は3%だった。10歳代を除き、男性では7～8割、女性では8～9割の方が役にたっていると感じている。どの年代を見ても、女性の方が男性より、誰かの役に立っていると感じている割合が10%程度高い。 誰かの役に立ちたいと思う人は55%、ときどき思う人は38%、ほとんど思わない人は6%、全く思わない人は1%だった。男女とも80歳以上を除き約90%の人が、今後誰かの役に立ちたいと思っている。</p>	⇒人とのつながりがない人がいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちの通じ合える人の増加</li> <li>・日頃を評価し認めてくれる人の増加</li> <li>・悩みや心配事の相談に乗ってくれる人の増加</li> <li>・世話をしてくれる人がいる人の増加</li> <li>・誰かの役に立っていると感じる人の増加</li> <li>・誰かの役に立ちたいと思う人の増加</li> </ul>	91.5% 89.4% 89.6% 90.9% 81% 93%	増やす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区組織との協働</li> <li>・ソーシャルキャピタルの推進</li> </ul>	スマイル部会

みんなは、生きがいや楽しみの場をつくります	会とつながりを持つ ・相談できる人を持つ ・役割や趣味をつくる	心の健康 (休養含む)	<p>ストレスをいつも感じる人は19%、ときどき感じる人は58%、ほとんど感じない人は21%、全く感じない人は2%だった。ストレスをいつも感じている人の割合が高いのは、男女とも30～50歳代で約20～30%の人が感じている。</p> <p>ストレスと人とのつながりとの関係を見てみると、人とのつながりがない人はストレスをいつも感じる割合が40%近くあるのに対し、人とのつながりがある人はストレスをいつも感じる割合が17%程度と少ない状況である。</p> <p>ストレスと運動習慣との関係を見てみると、運動をよくする人はストレスをいつも感じる人が10.2%、ときどきする人は14.9%、あまりしない人は23.5%、全くしない人は32.2%と、運動習慣によって、ストレスをいつも感じる割合に差がある。</p> <p>ストレスとサークル活動との関係を見てみると、文化系サークルでは、よく参加する人がストレスをいつも感じる割合は14.1%だが、参加しない人では24.7%と多い。また運動系サークルでは、よく参加する人がストレスをいつも感じる割合は11.3%だが、参加しない人では25.7%と2倍以上となっている。</p> <p>ストレスと職業との関係を見てみると、ストレスをいつも感じる割合が多いのは、医療専門職で34.8%、会社員25.2%、公務員23.0%で、逆に少ないのは無職8.9%、農林水産業9.7%、専業主婦11.3%であり、職業により差がある。</p>	⇒若い世代(働き盛り)でストレスを感じている割合が高い。	・ストレスを感じている人の割合の減少	77%	減らす	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康教育</li> <li>健康相談</li> <li>地区組織との協働</li> <li>ソーシャルキャピタルの推進</li> <li>ステーションとの協働</li> </ul>	ステーション
			<p>睡眠や休養が全くとれていない人は1%、あまりとれていない人は21%、まあまあとれている人は58%、よくとれている人は20%だった。睡眠や休養がとれていないと感じているのは、10歳代の男性で37.7%と最も多く、次いで40歳代の女性で38.8%、30歳代の男性で35.4%となっている。男女とも10～50歳代で睡眠や休養がとれていないと感じている割合が高い。ストレスと睡眠・休養には、明らかな関連が認められている。</p>	⇒睡眠や休養がとれていないと感じている人がいる。	・睡眠や休養がとれている人の増加	78%	増やす	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康教育</li> <li>健康相談</li> </ul>	スマイル部会 スポーツ部会
私たちは、健康情報を分かち合います	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康情報を得る方法を確認</li> <li>専門的な相談機関をもつ</li> </ul>		<p>相談窓口を利用したことがある人は12%、知っているが利用したことはない人は54%、知らない人は34%だった。相談窓口を知っている人は、60歳代以上の男性及び50歳代以上の女性で約80%いる。しかし、20歳代では57.6%、30歳代では41.7%、40歳代では32.3%の人が相談窓口を知らない。</p>	⇒相談窓口を知らない人がいる。	・相談窓口を知らない人の減少	34%	減らす	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報</li> <li>幼児健診に併せてPR</li> <li>母子健康手帳の交付時の面接</li> <li>部会との協働</li> <li>ステーションとの協働</li> </ul>	情報部会 ステーション
			<p>SOS健康づくり計画の認知度は21.7%、SOS健康・情報ステーションは、17.3%、SOS健康づくり計画運営委員会(かたつむりで行こう会)は15.8%、ホームページは7.9%である。計画、ステーション、かたつむりで行こう会の周知は50～70歳の女性で一番多く、計画では30～40%、ステーション・かたつむりで行こう会では約30%である。</p>	⇒計画の認知度が低い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>次のことを知っている人の増加</li> <li>A. SOS健康づくり計画</li> <li>B. SOS健康・情報ステーション</li> <li>C. SOSかたつむりで行こう会</li> <li>D. SOSかたつむりで行こう会のホームページ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A.21.7%</li> <li>B.17.3%</li> <li>C.15.8%</li> <li>D.7.90%</li> </ul>	増やす	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康教育</li> <li>広報</li> <li>SOS健康フェスタ</li> <li>部会との協働</li> <li>ステーションとの協働</li> </ul>	情報部会 ステーション